



琉球玩具 通信



No. 4

2025.10.25.

琉球玩具に関する情報交換と記録の広場

目次

私たちの玩具作りと遊び—③—上運天 賢盛.....1
葉や種皮などで動物を作ってみよう—與儀 誠—.....3

リーフクラフトを八重山の新しい文化に！—④—
Tレックスの編み方.....谷崎 樹生.....6
身近な植物で草玩具を作ってみよう—③—西平 守孝.....8

私たちの玩具作りと遊び—③—

上運天 賢盛

私達は仲間で集まり、玩具作りと作った玩具で遊んで楽しんでます。機会があれば大勢の子どもたちを対象に、玩具作りの講座を開くこともあります。皆さんも、時間に余裕のある時に玩具作りを気軽に楽しんで頂けますように、いくつかを紹介させていただきます。

1) 小鳥笛

チンブク(=ホテイチク)を使って小鳥笛を作ってみましょう。指の構えや舌をうまく使えば、いろいろな小鳥の鳴き声を真似できる。材料は、① チンブク、② 直径 5mm× 2mmの扇用竹ひご、③ 輪ゴムなどが材料です。道具は鋸、ドリル、ニッパー、ナイフなどで、色を塗る場合はペイントマーカーも準備します。



小鳥笛

作り方:

- ・節を外して、竹を 7cmの長さに切る(笛の胴部になる)
- ・歌口を開ける(6~6.5mmのドリルで、端から 3cmのところを孔を開ける)
- ・吹き口を作る(竹を 4cmの長さに切り、胴の歌口に当てる部分の先端を斜めに切る)
- ・吹き口を胴体に当て、輪ゴムでしっかり止める(ピーと音が出るか調整する)
- ・調整済みの状態で胴部に吹き口をボンドで貼り付ける



別の角度から見たところ

遊び方:

- ・吹き口を口にくわえて息を吹き込み、音を出して遊ぶ
- ・形を変えて見たり、息を吹き込む強さを変えたりして、違う音色を出して遊ぶ

2) 天道虫凧(てんとうむしだこ)

子どもたちは風揚げが大好きです。手軽に作る事ができる上、よく上がる凧を作ろうと考え、テントウムシの凧を創作しました。とても簡単ですので、作ってみてください。天気が良く風のある日に外に出て、風揚げを楽しみましょう。ハガキ大から畳半畳までこの次第です。材料は、① 障子紙または赤いポリシート、② 竹ひご(平竹)、③ 水糸(No.6)、④ 両面テープかセロテープ。道具はマジックインキ(黒・赤)とボンドなどです。

作り方:

- ・障子紙またはポリエチレンシートを使う(できれば赤、白や透明の場合はマジックインキで赤く塗るとよい)
- ・テントウムシの形に切り、黒で斑紋を描き、前翅の部分は赤く塗る
- ・所定の位置に縦骨と横骨を貼る(両面テープを使うか、セロテープを骨の上にかぶせて貼り付ける)。凧の形を保つため適宜細い骨を加える
- ・所定の糸目点に糸目糸を取り付ける(2本または3本糸目いずれでもOK)
- ・尾を作る(幅 5cm長さ 7mで、風の強弱で短くしたり、長く縫ぎ足す)
- ・揚糸を準備する(No. 6 の水糸およそ 30m ほど)
- ・曲げ骨に反りを入れるとより安定する。紙の尾の代わりに、下の斜骨の両端にジューシャクを付け、Y字型に縄の尾を付けてもよい(3本糸目の時)

遊び方:

- ・広場で風を背にして両手で糸を持ち、凧の引きに任せて糸を繰り出す
- ・風を受けて凧は自然に上がっていく

竹ひご(平竹): 8mm×3mm (曲骨); 5mm×2mm (縦骨); 2mm×1mm (斜骨): いずれも長さ適宜



空高く上がったテントウムシの凧:
左: Y字の尾付き、右: 紙の尾付き

2本糸目: ②・③; 3本糸目: ①・②; ジューシャク: ④, Y字の尾; 紙の1枚尾: ⑤; ●: 糸目中心

3) クルクル落ちる輪

昔流行った動くおもちゃを作ってみましょう。螺旋の針金を伝って落ちる色づきの竹の環を作ります。工作に使う材料は、① 20番の銅の針金(50cm)、② 直径1cmの棒、③ 竹(直径1cmの女竹またはヤンバルタケ)です。道具は鋸、ペンチ、ペイントマーカー(またはアクリル絵具+パレット+筆)など。

作り方:

- 銅線を棒に巻いてらせん状にし、棒を抜きとって螺旋塔に整える
- 鋸で直径1cmほどの竹を長さ3mm程に切り、環を作る(①)
- 竹の環を好きな色に塗る
- 竹の環の代わりに釣り具のサルカンなどを利用してもよい(中央の指針の→)(②~④)

遊び方:

- 螺旋の塔に竹の環をセットし、落下させて遊ぶ
- 次々に落下させて、追いかけてながら落下する様子を見て楽しむ



螺旋塔



サルカンなどの他に、いろいろなものを代用した環

4) 風船リード笛

昔、運動会シーズンに流行りました。膨らませた風船がしぼむ際に、風船の中から外に出る空気の力を利用して鳴らす笛を作ってみましょう。材料は、① リュウキュウチク、② ゴム風船、③ 輪ゴ、④ 薄いプラスチック板(市販の弁当箱の透明のプラスチック蓋でOK; 厚すぎる蓋は不向きです)、⑤ 輪ゴムなどで、道具は鋸とナイフを使います。

作り方:

- 直径1.5cm程の竹を、鋸で長さ5cm程に切る(節を含まないように注意)
- 竹の一端を30~35度程度の角度で斜めに削り落とす
- 角度を付けた端の上部(中の空洞ぎりぎりの位置)に切り込みを入れる
- プラスチック板でリードを作り、切り込みに挿し込む(①)
- リードを取り付けた部分を太めの竹(②)に挿し込み(③)、更に風船の吹き口を被せて輪ゴムで止める(④)

遊び方:

- 竹の吹き口と反対側から空気を吹き込んで風船を膨らませる
- 風船がしぼんでいくときに出る空気が、リードを振動させて音を出すので、風船を加減して音を変えて遊ぶ

リード付きの笛



①

竹筒

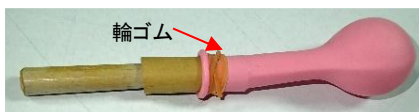


②



竹筒に挿し込んだ笛

③



ゴム風船をセットした笛

④

5) ガリガリ蜻蛉(がりがいとんぼ)

この竹とんぼは飛ばして遊ぶものではなく、鋸歯状の刻みをつけた心棒に当たる部分を、もう一つの棒でガリガリと上下にこすることによって振動を伝え、先端に取り付けたプロペラをまわすというものです。材料は、① ベニア板片(竹でもよい)、② 太い竹ひご、③ 直径5mm程の竹串、④ ジュズダマの実などで、道具は、鋸、ドリル、ナイフ、ペイントマーカー、木工用ボンドなどです。

作り方:

- 太めの竹ひごで心棒を作り、心棒の片面に鋸の歯のように連続した刻みを入れる
- プロペラ作りに適したサイズにベニア板(または竹の板)を切る
- 切った板片でプロペラを作り、中央に直径3.5mmの穴を開ける
- 心棒の先端に直径3mmのドリルビットを使って孔を開ける
- 先端に開けた3.5mmの孔に竹串を挿し込み、プロペラを被せ入れ、その上をジュズダマで止める(ボンドを使う)。心棒に横向きに棒を取り付け、両端にもプロペラを取り付けてもよい(プロペラは薄めに作る。計3個)。プロペラは竹串にきっちりあはめず、ゆるめにする
- 心棒に当ててこする棒を太めの竹ひごで作る
- チンブクの稗の根元の節の詰まった部分(左写真の左)をガリガリ棒にしてもよい(採集は所有者の了解を得て行う)

遊び方:

- 心棒のギザギザをこすり棒でこすって振動を与え、ガリガリ棒の先端に付いたプロペラを回して遊ぶ



チンブクの節



パーツ



セットした状態

ここに示す玩具の小鳥笛以外は、上運天提供の手引書を一部改変し、西平が作った。

かみうんてん けんせい
那覇市首里鳥堀町在住

物が不足していた時代、身近にある植物で玩具を作って子供たちを楽しませた時代からみれば、今や隔世の感があり、プラスチック製の怪獣などがあふれています。昔懐かしいやりかたで、身近にある植物で草玩具を作る方法が、「琉球玩具 通信」でいくつか紹介されていますが、アダンやクバの葉などで作る伝統的な作り方は不器用な私には不向きなので、葉や種子を利用した創作草玩具に挑戦してみました。

アダンなどで作るカタツムリをまねて、サンニンの実を利用してカタツムリを作ってみました。また、クロトンの葉は色塗りは必要ですが、数日たつと色がくすんでしまいますので、早めに写真を撮って画像にするとよいでしょう。

1) クロトンの葉とゲットウの実

植物の葉にはいろいろな形や色彩のものがあります。それらの特徴を活かして、さまざまな草玩具を作ることができます。例えば、動物や恐竜などを作ってみましょう。ご参考になればと考え、ここでいくつかの作り方を紹介します。皆さんも作ってみてはいかがでしょう。曲げたり、切ったり、たたんだり、あるいは他の葉と組み合わせたりと、いろいろ工夫しながら面白い形と模様の動物を作ってみましょう。



普通に作ったカタツムリ



ゲットウの実のカタツムリ



クロトンの葉の動物



2) アボガドの皮

アボガドの実の皮はフレッシュな時は柔らかいのですが、しばらくすると緑色から暗い黒色に変化して硬くなります。そのため、手早く形を整えるとよいでしょう。中の種は傷つけると赤く変化し、そのまま放置するとさまざまな形や色に変化します。



カメのパーツ



カメ



ワニ



ダニの若虫



ダニの若虫

3) カニステル・マンゴウの種とアロエの葉

カニステルの種子や硬く、光沢があります。種の中身をくり抜いて動物を作ろう。そして準備したものは、動きながら顔を振る仕掛けを作るのに適当になります。一方、マンゴウの種子は熱帯魚の材料になりますし、アロエでは怪



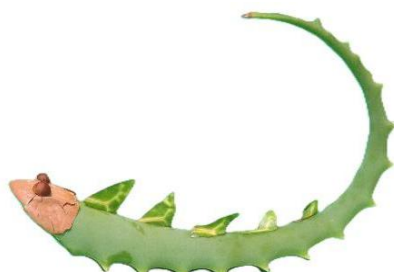
首振り種子動物



裏から見たところ



熱帯魚



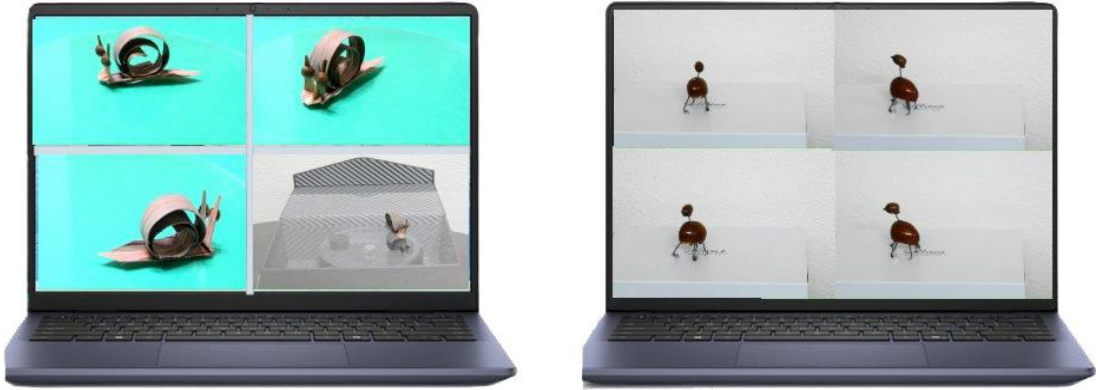
アロエの葉の怪獣

4) 草玩具を動かして遊ぶ

草玩具を作るだけでなく、これまでこの通信でいくつか紹介しましたように、動かして遊んでみましょう。そのためにいくつかの道具を使いますが、家にあたり100円ショップで安く買えるものだったりするので、大きな出費にはならないでしょう。別の角度からの楽しい楽しみ方として、作った草玩具を使って遊んでみましょう。

① 玩具を動かして遊ぶ①

カタツムリの草玩具を、市販のターンテーブルの上に乗せて動かすことができます。カニステルで作った草玩具は、少し重いので、トルクの大きい回転装置を作って動かしてみました。



② 玩具を動かして遊ぶ②

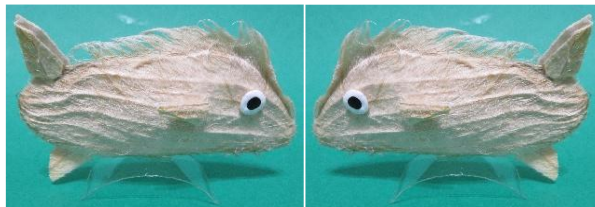
磁石を回転させる装置がない場合は、草玩具をグリーンスクリーン*で撮影し、画像や動画をフリーソフトの Microsoft Clipchamp などを使って、適当な背景や動画と組み合わせて草玩具の動画を作ることができます。例えばカメラを動かしたい場合はこのソフトにある効果でスローズームランダムを用います。わからない場合はお孫さんに聞いた方がよいかもしれません。これで、昔の遊びと現代の遊びを繋ぐことができるかもしれませんね。

③ 玩具を動かして遊ぶ③

「琉球玩具 通信」に紹介されたいろいろな編み方で作る草玩具に小さな針金を取り付けて、磁石を取り付けたターンテーブルの上に乗せれば、長時間動く草玩具を楽しむことができるようになるでしょう。



ボートを追いかけて泳ぐウミガメ



マンボウ？ マンゴウ？

*グリーンスクリーンとは、動画や写真の背景として使用する緑色のスクリーンのこと。

5) 草張り子を作る

クロトンの葉その名の通り、葉はさまざまな形でさまざまな色をしています。枯れてくると色もくすんできますので、取り立ての葉を使って作った玩具は長時間の保存はできません。そのため、できたての張り子の画像を写真に撮り、保存しておけばよいでしょう。普通に見られる張り子は、紙を貼り重ねて色を塗って作ります。クロトンの葉もセルローズにはちがいないとはいえ、生きているときの葉の色をそのまま利用した草張り子は従来の張り子とは趣が異なり、一味違ったものになります。

図に示す動物は、クロトンの色と模様を利用して作ったキリンです。



クロトンの葉

サンニンの実

紙の頭

組み立て方

かろうびんがの材料

完成した かろうびんが

作り方

- ① 段ボールでニワトリになるように型をつる
- ② それにクロトンの葉をボンドで貼り付けて切り取る
- ③ 切り取ったものをボンドで貼り付けられればできあがり



6) カラーシフトして楽しく遊ぶ

カラフルなクロトンの葉で作ったニワトリやクロトンの葉とゲットウの実や紙製の頭で作ったカろうびんなどを、パソコンでカラーシフトしてみました。このようにして作った草張り子は長持ちしませんが、写真に撮っておけばいろいろと楽しむことができますでしょう。色違いのクロトンへの変化など、草張り子ならではのこのようなカラフルな遊びも楽しんではいかがでしょうか。



パソコンでニワトリをカラーシフトしたもの



パソコンでかろうびんがをカラーシフトしたもの

よぎ せいいち
那覇市首里崎山町在住

通信 No.1 で少し紹介しましたが、私のリーフクラフトは伝統的なバッタの編み方の改良から始まりました。六本脚のバッタがよりバツらしく編めましたので、四本脚や二本脚の動物も編めるんじゃないかとチャレンジが始まりました。ヤエヤマシの葉の質感は昆虫っぽくもありますが爬虫類的でもありませんから、いきなり二本脚の恐竜を編んでみようと考えた訳です。それで、試行錯誤の結果完成したのが、今回紹介するTレックスです。Tレックスの生態については、待ち伏せ型の狩りをしたとか、追っかけ型だったとか、死肉食だったのでは？ 等等議論百出で、まだ定説は無いようですが、今回は頭を下げた前傾姿勢のTレックスの編み方を紹介します。

ほんの少し角度を変えただけで、全く違う表情が表現できることに気づかせてくれたTレックスの編み方が完成した時、リーフクラフトの無限の(とまでは言いませんが)可能性を感じたものでした。

Tレックスの編み方

この先、順を追ってTレックスの編み方を紹介します。



1) 胴体を編む

- 1 Tレックスの胴体は太めですから幅広で傷の無い葉を選びます。
- 2 葉先を斜めにカットして尻尾の先を尖らせます。
- 3 尻尾の長さは7~8cmもあれば充分ですから葉先を7cm残して3枚におろします(写真1)。
- 4 帯の残りが30cmぐらいになるまで胴体を後ろから5~6段編みます(写真2~次ページの写真15)。この辺までは前回のトントンミーとほぼ同じですが、胴体の厚みを増すための一工夫が必要です。
- 5 斜め後ろに折り上げる折り目を少しずつ下に下げる(写真16の青いライン)ようにすると、胴体が太くなっていきます。体側の斜めの折り目(黄色)が平行になるように、その上のライン(赤)が揃うように編むと美しく仕上がります(写真16)。

2) 頭・手・脚を編む準備

- 6 帯の端を揃えて、後縁が尖るよう斜めに切ります(写真17)。
- 7 帯の前縁を合わせて重ね、前から3:1:2と切除する余分に切り分けます。帯の全幅を使ってしまうと頭・手・脚が胴体に比べて大きくなり過ぎます(写真18~20)。前から3:1:2に切り分けた帯を前から1番~3番と呼びましょう。

3) 頭の編み方

- 8 1番を上折り上げ肩口から下に通して付け根の後ろ側に出し引き締めます(写真21~22)。
- 9 1番を斜め前上方に折り上げ、1番をすくって軸の輪の中を通して斜め上へ(写真23~25)。
- 10 左の1番を外側下向きに曲げ、右の1番を巻くように結びます(写真26)。
- 11 右の1番も同じように結ぶと頭頂部が決まり、帯は揃って前方斜め下を向いています(写真27)。
- 12 左の1番を内側後方に折って、軸の環の上で2枚の帯の間を通し、首の軸の環の上で外側に折り、軸の環を通して下へ(写真28~32)。
- 13 ここで3番を上折り上げ、肩口から下に通して付け根の前側に出します(写真33~35)。これで前傾姿勢が決まります(付け根の後ろに出すと頭を上げた姿勢になります)。
- 14 1番は腹側から反対側に回して、反対側の体側の1番と3番をすくって後方へ。左右同じように編めたら、頭が完成です(写真36~37)。

4) 手の編み方

- 15 次に2番で手を編みます。
左右の2番を腹側から反対側に回して写真38~52のように編んで手を完成させます。

5) 脚の編み方

- 16 両側の3番を内側斜め後方に折り上げ脚の長さを決めます(写真53、この時正面から見て折り目の位置を揃えないと二本脚で自立できなくなってしまいます)。
- 17 内側に折り上げた3番で写真54~60のように編んで脚を完成させます。
- 18 肩口から上に出た3番は反対側の肩口から下に入れ、写真61~65のように収めます。
- 19 手を編み終えて後方に伸びている2番を脚の付け根に写真66~67のように巻いて、最後は肩口から下に通し(写真68~69)3番と同じように収めて余分を切ればTレックスの完成です(写真70~71)。
- 20 編みあがった時は自立していても乾燥が進んで変形すると倒れてしまうことがありますから、要所要所に爪楊枝で木工用ボンドを押し込んでクリップで挟んで固めると良いでしょう。



写真 1

写真 2

写真 3

写真 4

写真 5

写真 6

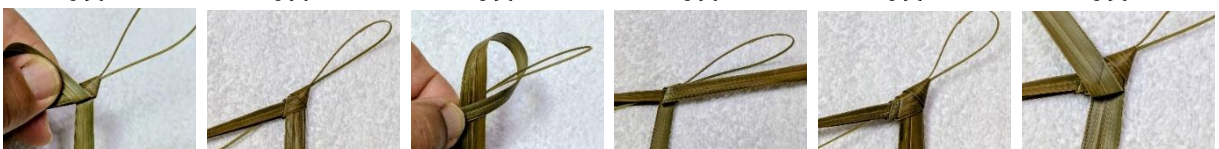


写真 7

写真 8

写真 9

写真 10

写真 11

写真 12



写真 13



写真 14



写真 15



写真 16



写真 17



写真 18



写真 19



写真 20



写真 21



写真 22



写真 23



写真 24



写真 25



写真 26



写真 27



写真 28



写真 29



写真 30



写真 31



写真 32



写真 33



写真 34



写真 35



写真 36



写真 37



写真 38



写真 39



写真 40



写真 41



写真 42



写真 43



写真 44



写真 45



写真 46



写真 47



写真 48



写真 49



写真 50



写真 51



写真 52



写真 53



写真 54



写真 55



写真 56



写真 57



写真 58



写真 59



写真 60



写真 61



写真 62



写真 63



写真 64



写真 65



写真 66



写真 67



写真 68

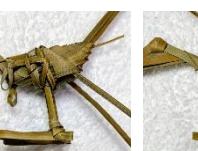


写真 69



写真 70



写真 71

たにざきしげお
石垣市宇新川在住

身近な植物の花や葉、実や種子などを使ってさまざまな玩具を作って遊ぶのは、子供たちの世界では普通のことでした。何もかも便利になった昨今では、そのような遊びをすることが少なくなったような気がします。昔遊んださまざまな遊びを思い出し、あるいはこれはこのような遊びに使えるぞと考へて、試行錯誤的に作ってみようかと思ひます。単なる昔想いのノスタルジーにとどめず、新たな玩具素材の開発と考へれば、年寄りはいつも昔の話ばかりしてと言われることもなく、気も晴れやかになるかも知れません。

1) シュロガヤツリ

シュロガヤツリは、その名の通り「蚊帳吊り草」の仲間で、シュロを彷彿とさせるような草です。多くのカヤツリグサ類と異なり、水辺に生える大きな茎は高く、茎の先端に沢山の葉が放射状に付き、実も頂上になる巨大なカヤツリグサの一種です。古くから伝わる草玩具の中に、シュロガヤツリを使って作ったものは見た覚えがないように思ひます。なんとももったいない素材ですので玩具を作ってみたいと考へ、チャレンジしてみました。ここで示すのはごく一握りですが、他にもさまざまな玩具を作ることができ、また遊ぶことができるのではないかと思ひます。不用意に葉の縁に触れて滑らせば切り傷のもとですので、注意が必要ではあります……。



シュロガヤツリの花序

① 植物全体で作るミニ旗頭グー

玩具は基本的には本物の手本があり、そのミニチュア版といえるでしょう。沖縄各地で行われるさまざまな地域の祭りに、その土地土地の旗頭の演舞があつて賑わっています。旗頭グーは旗頭のミニチュアで、シュロガヤツリの植物全体を使って作ってみましょう。

- ・傷のない葉がそろった茎を使い、上部に集まった葉をいろいろに組んで旗頭にします
- ・工夫次第で、いろいろな旗頭を作ることができるでしょうから、いろいろ考へて作ってみましょう



旗頭グー

② 葉で作る草玩具

シュロガヤツリの葉の縁に不用意に触れると、柔らかい肌の場合は切り傷になることがありますから、注意が必要です。傷を負わないように注意しながら、作業しましょう。

- ・葉は細長く長いリボンのような形ですから、マーニの小葉やススキの葉などと同じように、さまざまな草編み玩具の材料として使えるでしょう



カタツムリ

風車

指輪

サン

旗頭

③ 茎で作る動物たち

他のカヤツリグサ類よりも茎がとてもしっかりと長いというシュロガヤツリの特徴を活かして、工作してみましょう。茎は緑の皮の内部は白い髓が詰まっています。枯れると全体が茶色になります。それらを活かして、さまざまな玩具を作ることができます。茎も他の部分も枯れると茶色になります。茎が太くないために、できるものはミニサイズになってしまいます。

- ・爪楊枝や竹串など細長いスティックで、切った茎に挿していくつかを繋ぎ、さまざまな動物たちを作ることができます
- ・さまざまな動物たちを頭に浮かべながらチャレンジしてみましょう。でき上がるのは、全てミニチュアです



キリン

ダックスフンド

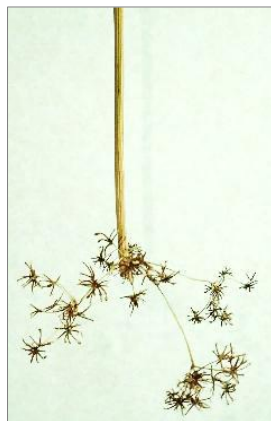
イヌ

ネコ

④ 線香花火

シュロガヤツリの実を茎の先端に付けたまま葉を外し、線香花火を模した玩具を作ってみましょう。そっくりな形に作ることができるでしょう。

- ・花序を切り取って茎に開けた穴に挿し込めば、線香花火にそっくりになります



線香花火

にしひら もりたか
那覇市首里石嶺町在住